

## 始良市地域ケア個別会議 モニタリング用紙

モニタリング日時 令和 3年1月19日（ケア会議実施日 令和2年10月15日）

計画作成者所属

計画作成者氏名

## 【事例の概要】

○対象者情報・・認定情報：事業対象者 年齢：86歳 性別：男

○生活行為の課題等

①本人の思いと行動のズレ。（リハビリをして歩くことに自信をつけたい思いと、理由をつけて散歩やデイケア利用には消極的、悲観的な言動）②転倒の不安が強く、閉じこもり傾向にあり足腰の弱りや認知機能の低下が懸念される。③呂律が回らないことや食事に時間がかかる。嚥下状態の問題。④妻のストレスが大きい。

## 【ケア会議後の事例の状況】

| 項目                      | 内容  |
|-------------------------|---|
| 参考になった意見                | 食事は分食で対応。下肢虚血に配慮し20～30分の歩行訓練後は休憩する。夜間義歯の装着を勧める。STの介入を検討。口腔機能やケアについて具体的な説明（呼吸機能の低下など）をして、口腔体操の資料を活用する。歩行器や訪問リハビリの検討。薬剤について考慮する視点が必要。夜間転倒のリスクが高い。出血に注意など。午後からの地域サロンに夫婦で参加してみる提案 |
| 実施状況<br>(ケアプランに反映させたこと) | 口腔体操（ペットボトルローリング）ぶくぶくうがい訓練、舌の清掃を実施し、口腔機能改善の意識づけを図る。散歩には、妻が同行出来る回数を増やせるように努めるようにして、歩行器利用を勧めている。  |
| 利用者の反応・変化               | 口腔体操の資料を見て、すぐに妻がペットボトルを準備し訓練を始められ、食べこぼしが少なくなった。継続する為に声掛けが必要である。近く、歯科受診を予定している。寒くなると外には出たがらない。歩行器については、人目を気にしてまだ利用する気持ちはないが、自宅での自主体操は継続されている。                                  |

## 【事例対象者への支援以外で助言が活かされたこと、取組んだこと】

口腔機能やリハビリ効果を確認して薬剤の影響も把握しながら、日常生活を注意して見れるようになり視点が広がった。今後は、認知面についても細かく見ていきたい。また、今回、妻の急な入院に伴い、本人のショートステイや病院の地域包括ケア病棟への検討を行った。レスパイト入院で、生活面だけでなく毎日リハビリ訓練を受ける事ができた。医療機関と上手く連携し繋げる事ができたと思う。

## ※市担当者記載【地域課題への対応】

地域サロンの仕様について、地域に制限されないサロンや自治会未加入のかたへの対応など、社会福祉協議会と意見交換を継続する。

市の取り組みとして、65歳や75歳などの区切りに発送される郵便物にサロン情報を添付するなど、サロンへの参加を促進する仕掛けを検討する。

